

発行日：2009年8月1日

発行人：パートナー情報誌『香澄』編集部会

編集員：尾形孝彦、浅野明宏、有吉潔、大島寿夫

栗原知彦、平江俊之、安川敏行、稲葉寛

中村利夫、深澤幸義、軽部達夫、中原清人

○『植物グループ パートナー活動の現況』～野外講座・湖岸植物定点観測観察 調査方式の変更について～

平成21年度第3期パートナー活動体制への移行を期に、これまで植物プロジェクト活動の一環として平成18年度から3年間にわたり実施して来た「湖岸植物の定点観測」における調査方法を見直し、これまでの調査結果を参考に、限られた人材と時間を効率的に活用し、目に見える成果とするため、新たな視点に立った観察・調査内容に変更することとした。

これまで、国交省霞ヶ浦河川事務所が実施している自然再生事業で定めたA～Iの9区間について、毎月の定例日に2～3区間の植物種を悉皆(しっかい)調査し、18年度は299種、19年度は291種、20年度は320種を確認した。しかし必ずしもそれぞれの植物種の生育期が調査時点と合致せず個々の植物における生育過程の全体像をつかめない結果となった。(※悉皆調査；全数調査の意)

このことから今年度からは霞ヶ浦に特徴のある植物種30種(下表参照)を選び定期的(原則毎月第4水曜日)に継続して生育状況を観察・記録し、ビジュアルにまとめ、霞ヶ浦の自然環境についての知識・理解を深め、環境保全活動に広く活用してもらうこととした。

なお、30種以外にも、絶滅危惧種、特定外来種、新出種等を確認した場合は随時記録することとした。既にヤナギトラノオ、サジオモダカ、ショウブ、ヤセウツボ、クマヤナギ等の新出種が確認されている。

【調査対象植物 種名一覧表】

A 区間	イシミカワ、オギ、ヨシ、シロネ、スイカズラ、ミズアオイ、ジョウロウスゲ、ウマノスズクサ、アキノキリンソウ、アワボスゲ(B区間)、イヌノフグリ、オオアカウキクサ
E 区間	イヌドクサ、ガガイモ、ハンゲショウ、ビナンカズラ
F 区間	アカメヤナギ、ノイバラ、ミナグサ、ノウルシ、トチカガミ、
G 区間	ジョウロウスゲ、ノウルシ、オニグルミ、サンショウモ
H 区間	ミズアオイ、ノアズキ(ヒメクス)、サクラダテ、シロバナサクラダテ、ミクリ、セイタカヨシ、ジョウロウスゲ

(後記) これまでご指導いただいた安昌美講師は3月末で退任されました。安先生には大変お世話になり、本欄を借りて厚く御礼申し上げます。代って4月からは、福田良市講師(前 県立下妻二高教頭)が着任され、熱心なご指導をいただいています。(植物リーダー 有吉)

○ 第37回霞ヶ浦入門講座「利根川の水利用と両総用水」(H21.5.29)に参加して

千葉県香取市佐原にある両総用水第一揚水機場と利根川桶門で、現地講座が開催された。風の強い雨模様の天気にもかかわらず、40名近い人が参加された。午前中、会議室でこの機場の概要説明を受け、その後、ポンプ室(農業用水のポンプ能力：5台で計約14.5 m³/s、都市用水ポンプ能力：2台で約6 m³/s)やコントロール室と20mの高さに揚水された吐水槽の見学を行った。

この揚水機場は、80km先にある九十九里平野に農業用水(田んぼ：14000ha、畑：4000ha)を供給する目的のため、昭和18年に着工、昭和40年に完成された。九十九里平野には大きな川が無く、また昔、海であったのでため池には適さず、降雨頼みの不安定な農業であったが、この施設が完成したおかげで一大農業地帯となった。

千葉県の発展にともなって、現在はこの施設を共同利用して水道用水(昭和52年から)や工業用水(昭和61年から京葉工業地帯方面へ)にも供給されている。

午後は、利根川の水を取り入れている利根川桶門を見学し、講座は終了した。私自身、身近にある設備が何をしているのかよく分からないので、このような現地講座を通して理解し、水への関心をより深めていきたいと思う。(平江)



両総用水機場会議時での概要説

○ 写真ビギナーがぶつかった壁

定年後趣味を増やそうとデジタル一眼レフを買い、撮影を始めて4年となりました。写真を選んだ理由は「デジカメは簡単にできそうだ」「一人でできる」ことでした。

最初に被写体は美しい「花」と決め、季節に咲く美しい花を追い撮影、プリントし我が家の玄関に飾り悦に入っていました。1年も経つと花は同じ時期に、同じ場所に咲くので「ああ去年と同じだ。じゃつまらない」となり、一時やめてしまいました。習い事は何でもそうですが同じことの繰り返しなので、退屈になりやめることが多いようです。私も同じ道をたどりました。しかし趣味の少ない私には、写真をやめると退屈な時間だけが増えることとなりました。

ある日写真で知り合った友人より「カメラ、交換レンズ、プリンターを揃えたのにもってない。漫然と花の写真を撮るのではなく、例えば花を写すのにもテーマを持って写したらどうか」とのアドバイスをいただき“花の一番美しい姿”を記録に残すことを目標に掲げ再スタートしました。

ほんの2～3年写真をかじったからといって急に写真が上達するわけが無いのですからこれからは、目標にしたテーマに愚直なカメラマンとなるつもりです。

昨年我が家の庭に咲いた「月下美人」の美しい姿をご覧ください。 (目次)



○ ご近所探訪(2) 海蔵寺、鷺神社などをめぐる

今回はごく近所にある、鎌倉・室町時代の寺社と文化財を訪ねてみる。

当センター横の坂道を下って、土浦方面へ1キロほど行くと、右手奥にあるのが**宝珠山海蔵寺**(沖宿町)。当寺は今から600年以上前の室町時代(応永年間)に創建された古刹。第九代目の小田城主・小田治朝が菩提寺として開基する。後方の高台に、四十一歳で没した治朝の墓(市指定文化財)が現存する。

本尊は木像阿弥陀如来座像。鎌倉期の様式を持つ美しい仏像で、県指定文化財である。また寺宝として、承安五年(1175)の跋(ばつ・後書きの意)のある大般若波羅蜜多經(県指定文化財)や治朝と小田孝朝(治朝の父)の位牌が伝えられている。運が良ければ、本尊は拝観できる。広い境内には、八百本以上のムギナデシコや多種の草木が植えられ、シーズンには見事な花の寺となる。

海蔵寺から500メートルほど北へ登ると、木々に囲まれてひっそり建つ**沖宿鹿島神社**(沖宿町)がある。常陸の国には実に鹿島神社・香取神社が多い。祭神は武甕槌命(タケミカヅチ)と経津主命(ツツミノ)だが、まさに神話の世界。つまりは古代物部氏の足跡が、記紀、風土記から近世に至るまで残存しているのかも知れない。ここの鹿島神社は鎌倉期の創建といわれるが、地元では昔から“明神さん”と呼ばれて信仰を集めていた。今でも、お田植祭などの神事が続けられているようだ。こじんまりとした本殿・幣殿・拝殿とあるが、木造の鳥居は稚児柱と呼ばれる四脚の控柱を持つ両部鳥居で、旧中村宿の西根鹿島神社(こちらは市の文化財)と同形式で珍しい。

さらに北へ進んで上大津東小学校を左折、600メートルほど行くと、流鏝馬でもできそうな長い参道に出る。その奥に鎮座するのが、室町時代の文政元年(540年前)の創立と伝えられる**鷺神社**(田村町)。祭神は天日鷲命(アマノヒル)である。現在、愛宕神社、三峰神社、鹿島大神など十一柱が境内社として合祀されていた。昔から裁縫上達、のどの病に霊験あらたかという。この神社には、氏子を代表して祭祀、運営に当たる十六人当という「宮座」が今もあり、各宮座の古文書が伝わっているという。

神社右手のちょっと下った所にあるのが**神国寺**(田村町)。小さな山門をくぐると、本堂の左手前に石造の聖観音菩薩像が立っている。現在無住の寺のようだが、先程の鷺神社の別当寺だったといわれている。昔は神様も仏様も共存していたわけだから「仲良きことは、善き哉」か。ここの見どころは、市内でも唯一の石造浮彫りの十三仏立像。不動、釈迦、文殊、普賢、地藏、弥勒、薬師、観音、勢至、阿弥陀、阿門、大日、虚空蔵の忌日と逆修日にお札を貼り付けて供養する。市指定の文化財となっている。

さて、ここの仏さま達にお参りしたら、2時間5キロほどのコースは終了です。(細谷)



鷺神社の石造群



神国寺の十三仏



小田治朝の墓



海蔵寺の阿弥陀如来坐

○ 旅する蝶「アサギマダラ」

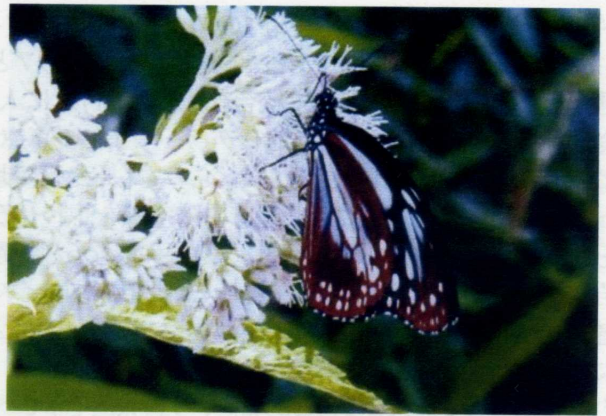
6月ころから初秋にかけて、関東地方の高原などでも渡り蝶（旅する蝶）として知られる「アサギマダラ」を見かけるようになる。

最近では各地にネットワークが出来、その行動がだんだんわかってきた。中には直線距離で1500km以上移動した個体や、1日あたり200km以上移動した個体もあると報告されている。

この蝶は秋になると南西方面に飛んで南西諸島や台湾などに移動し春にはその子孫が北東に飛んで日本各地に現れる。

渡り鳥のように同じ個体が飛来し帰っていくのではなく、飛来した成虫は産卵して死ぬ。その子が、卵から蛹になり羽化して成虫になると親と逆のルートをとって帰って行く。成虫の寿命は20～70日といわれる。その間に1000kmを超える大旅行をする。飛ぶ姿は優雅であるが、いったいどこにそんなパワーを秘めているのだろうか。なぜ、片道飛行を子孫に受け継がれ繰り返すのだろうか。

生態には謎が多くロマンを感じます。



ヨツバヒヨドリの蜜を吸うアサギマダラ

(安 川)

○ 果実酒造りにはまっています。

私は、下戸ですが今まで梅酒・かりん種・クサボケ(草木瓜)酒・ゆすらうめ酒等の果実酒を漬けて楽しんできました(主に奥さんが漬けます・・・)が、先日近所に唯一残されている昔からの雑木林脇をいつものように散歩中、雨がパラパラと振り出し思わず天を仰いだ目が、頭上の一点に固まりました。

桜の木に似た葉を持つ太い木の枝先に6～7mmの卵円形で、先のとがった青い実を穂状につけたサクランボの木でもないのに不思議な木の実を発見しました。

早速、名前を調べましたが特定できず、確認しましたところ、さくら属のウワミタ。

毎年、四季折々その木の下を歩いていよると新潟県では、青い実を果穂ごと採(あんにんご)と呼び酒の肴や料理のつまみ酒として珍重されているそうです。

果実酒造りにはまっている私にとって果実酒造りの方法を調べることにしまその前に、少しウワズミザクラについて胸高直径60cmになり、樹皮は暗紫褐色ある。葉は互生し、長さ8～11mmの卵刺状の鋸葉がある。葉の基部に腺点があるものと区別できる。



ウワミズザクラ

4月～5月に長さ6～8mmの花が咲き、す。4月に咲く桜とは葉脈が違うのでよく分かる。

さて、酒造りの話に戻しますが、まったく造り方が分からないのでインターネットで調べました。マニアがいるんですね。あまり教えたくないんだけどと断りつつ、実体験を通しての詳細な造り方が記載されておりました。

早速、それを参考に挑戦しました。青い実なので2年は熟成させようと思います。ただ、これから本来の黄赤色になるので再度採取し、1年で飲めるものを造るべく小鳥と木の実争奪戦をしようと思います。

今後の挑戦“酒目”は山ぼうしの実、山ももの実、グミの実、サルナシの実、こぶしの実、黄イチゴなどがあり楽しみです。これらが出揃ったら、試飲会でもやろうかな・・・。

センターの福田さん、中村さんにズザクラ(上溝桜)と判明しまし

たのに気付きませんでした。話に取り、塩漬けにしたものを杏仁香け合わせにしたり、熟した実は果

願ってもない食材発見です。すぐした。

て能書きを述べますと、高さ20m色で横に長いはっきりした皮目が形で先は尾状にとがり、ふちにはりイヌザクラの葉柄の上部につく

7～9月に実がなり黄赤から黒く熟

(尾 形)

○ ヨーロッパ紀行 スイス編その1

ドイツ南部、オーストリア国境近くのノイシュバンシュタイン城を見学後、バスでオーストリア経由でスイスに入った。355km、約4時間30分のバス旅であった。途中、オーストリアとスイスの国境では日本の高速道路料金所を想わせる国境検閲所を通過したが、今はEU圏として統合された為か付近に人影は見あらず、車は自由に往来していた。

検閲所からスイス登山の拠点地インターラーケンまでの車窓の風景は、事前に想像していた急峻な山は見あらず、ところどころに牧草地が見える少し大きめのふくらみをもった丘陵地がつづき、その向こうにやや急な山が見えるという高原の風景であった。牧草地のところどころには昔の防空壕を想わせる、草が少し盛り上がっているところがあったので、添乗員に尋ねますと武器や弾薬の格納庫だそうで、大きいものになると戦闘機も格納しているのだそうです。

自分達の国は自分達で守る、という「永世中立国スイス」ならではの風景のようです。普段は農場や牧場、山で働いている人達がいざ国の緊急時には兵に変わり、24時間以内に20万人もの兵を招集できるそうです。車窓近くの景色が牧草地から湖に変わるとインターラーケンです。

インターラーケンとは2つの湖の間という意味だそうでバスはブリエンツ湖畔を暫く走りました、もう一つの湖はその先の小さなトゥーン湖であります。インターラーケンは、二つの峰の間から山頂に白雪を頂いたユングフラウを望むことができる、日本の富士山5合目登山口といった感じのところですよ。勿論、富士山のようにゴミゴミしておらず、澄んだ空気、雄大な自然を肌で感じられることは富士山の比ではありませんが。

また、旅行案内やスイスの観光写真によくでてくる角笛やカウベル演奏、スイス舞踊は外ではお目にかかることができず、ディナーショーでしか見ることが出来ませんでした。

登山家は、ここインターラーケンには宿泊せず、バスや電車で40分程のグリンデルワルトまで足を延ばし宿泊するそうです。私達もそうしました。グリンデルワルトはアイガー北壁がすぐそこに迫り、五箇山の合掌造りのようなホテルが立ち並び静かなスイスらしい雰囲気漂う町です。スイスに行ったら是非ここでこの宿泊をおすすめします。



スイス ブリエンツ湖



インターラーケン



インターラーケン



アイガー北壁



グリンデルワルトにて



メンヒ、アイガーへの地図

(浅野)

編集後記

パートナー情報誌『香澄』の編集部会では、編集委員および投稿原稿の募集を行っています。

一緒に『香澄』の編集を行ったり、身近な話題を自然環境や環境問題に絡めて400字程度で原稿を書いたりしてみませんか。

ご興味のある方は、編集委員またはセンター環境活動推進課職員までご連絡ください。

次回の発行は、平成21年10月1日を予定しています。お楽しみに！！